

壁絵を使った観光振興の取り組み（リヨン）

リヨン市が作成している壁絵 (murs peints)¹の観光地図によるとリヨン市内に 18 作品がありますが、それらの壁絵はフェルヴィエールの丘、旧市街に次ぐ三番目のリヨンの人気観光スポットになっているとも言われています。

壁絵製作の手順は以下の通りです。まず、リヨン市は絵が描かれる建物を選定するとともに絵のテーマを提案します。壁絵製作会社はスポンサーを募り、スポンサーからの出資金により製作費用をねん出します。リヨン市は壁絵製作の費用については負担していません。この壁絵製作会社によると壁絵のスポンサー契約の期間は 20 年が多いそうです。たとえば、リヨンで有名な壁絵の一つ

(下写真) では、EDF (フランス電力公社) など 6 社が出資し、1 社あたり 3 万ユーロ (およそ 400 万円) を負担しているそうです。壁絵に描かれた企業やお店にとっては多くの観光客が絵を見るために訪れるので宣伝効果は十分期待できるようです。スポンサーとなった企業や商店が壁絵に描かれる際は、あくまで壁絵の一部として描かれ、壁絵全体のテーマや絵の趣を損なわないように配慮されています。次に、建物の壁に下塗りを丁寧に行った後に絵が描かれます。絵の大きさにもよりますが、完成までに下絵の工程も含めておよそ 3 カ月費やされるそうです。フレスコ画法を利用しているため、絵は実に堅牢で 20 年以上たっても美しい絵が保持されます。そのため、絵の手入れは 20 年に一回の頻度ですむようです。



リヨンで一番有名な壁絵。描かれているすべてリヨンにゆかりのある人物や作品。アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの星の王子さまも描かれている。



フランス南東部、ローヌ県の県都のリヨン (地図赤○)。パリの南東 470 キロ。ソーヌ川、ローヌ川の合流点にある都市。パリ、マルセイユに次ぐ大都市です。

リヨンの壁絵の多くは、リヨンの歴史や風物、街の様子、ゆかりのある人物や住民を描いており、壁絵はその建物に住む住民にリヨン市民としての誇りをはぐくみ、リヨン市民としてのアイデンティティを再確認するものになっています。たとえば、壁絵が描かれたフェルヴィエールの丘にある低賃金住宅 (次ページ右上) は、絵が描かれる前は治安に問題があり人もあまり近づかなかったようなアパートでした。しかし、絵が描かれてからは、絵を見るために観光客が訪れるようになり治安も良くなったそうです。このような絵を建物に描く際は、その

¹ だまし絵 (trompe l'oeil) とも呼ばれます。

アパートの住民の意見を取り入れ、アパートの住民のリーダー的存在の人を描いたり住民が大切に飼っている動物などを描くなどの工夫をすることによって、住民がアパートへの愛着や誇りを持てるようにしているそうです。

一方、アパートの所有者にとっては、壁絵が描かれることで建物への落書きがなくなり、建物の外観も美しく保存されるなどの利点があることから、この壁絵製作会社は壁絵を描いてくれないかという相談をアパート所有者から多く受けるということです。

また、壁絵製作は、問題のある若者の更生や人材育成にも役立っているそうです。たとえば、非行など問題のある若者の中には落書きに優れた才能を持っている人もおり、壁絵製作会社は公的機関から依頼を受けて、彼らとともに壁絵製作を行うことで、そうした若者の社会更生や職業訓練を提供しています。

リヨンでこれらの壁絵を手がけている会社が製作した壁絵は、現在、世界中に 470 作品あり、リヨン市と姉妹提携を結んでいる横浜市にもリヨン市街をテーマにした壁絵があります。欧米のような建物が少ない日本では壁絵を描く場所は限られてしまうでしょうが、観光振興策の一つとして、また落書き対策や地域活性化の手段としても参考になるとおもわれます。



フェルヴィエールの丘にある低家賃住宅に描かれた壁絵



ラ・ポストが出資社となっている壁絵。郵便配達職員が本物のポストとともに絵になっています。

2009年12月1日
クレアパリ事務所
所長補佐 安藤洋行（静岡県派遣）